

芸術と社会貢献Ⅱ

科目ナンバリング ARL-102
選択必修 2単位

大貫 真寿美

1. 授業の概要(ねらい)

「芸術」というものは「個人の想いや考え感情を表現する」ものだけと捉われがちであるが、「共有する想いを元に制作する」「制作することによって想いを共有する」ということも可能である。本講では「個人が制作したものを社会に役立てるでだて」を考える。そして、ワークショップを計画し実践をしてゆく。また、イベントを盛り上げるために作品を制作するなど「芸術」が社会にできること」を探し、個人の表現だけにとどまらず、発信してゆくことを考え実行してゆく。帝京大学幼稚園との協働授業(ワークショップ)を3回授業内で行う。ワークショップ前には授業内において様々な用具材料の検討を行い、園児とのワークショップを計画する。ワークショップによってコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上も目指してゆく。社会人として必要となる能力(ジェネリックスキル)の獲得をめざす。後期は前期の学びを生かし、さらに自分たちの学びによりワークショップの内容を考察し精査する。また、人間文化学科の特徴などをまとめた雑誌を個々で制作し、その雑誌で人間文化学科のアピールし社会貢献をしてゆく。
※コロナ感染予防の観点から対面のワークショップが実現不可能の場合は、動画・作品の往来によるワークショップにより、上記の内容を創意工夫しながら進める。

2. 授業の到達目標

芸術を通じての社会貢献を考え、その方法を提案できるようにする。コミュニケーション能力プレゼンテーションの能力の向上。次年度への橋渡しができる活動・提案をする。ジェネリックスキルを獲得する。雑誌「芸術と社会貢献」を作成し人間文化学科のアピールができるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

毎回のディスカッション20%・幼稚園でのワークショップでの活動の様子50%・制作およびレポート30%
ワークショップ2回欠席した場合、単位の取得は認めない。

4. 教科書・参考文献

教科書

北沢昌代 畠山智宏 中村光 『子どもの造形表現 第2版』 開成出版

5. 準備学修の内容

世の中がどのような状況にあるかを常に把握する努力をする。
ワークショップ前には内容を理解しておくこと
ワークショップ後にはレポートを作成すること。
ワークショップに活用できる内容を調べ、提案できるようにすること。

6. その他履修上の注意事項

常に物を考えること。社会の問題点に関心を持つこと。自分ができていることを考えること。
※帝京大学幼稚園とのワークショップの際には、服装・言動・立ち振る舞いにも気をつけること。
※教職希望者は特に履修すること。

7. 授業内容

- 【第1回】 LMSによるオリエンテーション
幼稚園への挨拶と希望調査
- 【第2回】 雑誌「芸術と社会貢献」制作①
- 【第3回】 前期のワークショップの反省と提案の中から活動内容を決める
- 【第4回】 ワークショップで行う制作試作と計画の再考
- 【第5回】 ワークショップ実技・ワークショップ①
- 【第6回】 ワークショップの学びと反省
- 【第7回】 雑誌「芸術と社会貢献」制作②
- 【第8回】 幼稚園からの希望を訊き内容を検討する
用具・材料の確認
試作し制作への理解を深める
- 【第9回】 ワークショップ計画②
- 【第10回】 ワークショップ②
- 【第11回】 ワークショップの学びと反省
- 【第12回】 ワークショップ計画
- 【第13回】 ワークショップ③
- 【第14回】 ポートフォリオ制作
- 【第15回】 まとめと提案プレゼンテーション